vinetur

アルゼンチン、ワイン輸出量増も輸出額は減少

1～10月の輸出額は2.6%減、輸出量は5.4%増。低価格のバルクワインの比率上昇が影響した

2026年11月11日（水）



アルゼンチンの10月のワイン輸出額は前年同月を上回ったものの、海外向けの出荷量が増えたにもかかわらず、輸出収入は2025年の水準を下回っている。

アルゼンチン国立ブドウ栽培研究所（INV）の公式データによると、マストを除く10月のワイン輸出額はFOBで6,808万7,000ドルだった。2025年10月の5,708万3,000ドルから1,100万4,000ドル、率にして19.3%増加した。輸出量の伸びはさらに大きく、10月の出荷量は2,184万8,100リットルと、前年同月の1,707万2,000リットルから477万6,100リットル（28.0%）増えた。

10月の増加は、2025年の低い水準を受けたものだが、前月比の増加にはつながらなかった。公式統

計に基づく計算では、2026年9月と比べ、10月の輸出額は663万3,000ドル（8.9％）減少した。輸出量も9月から54万1,300リットル（2.4％）減った。

輸出額を上回る輸出量の伸びは、1リットル当たりの平均輸出額が低下したことを示している。公式データから計算すると、10月の輸出額は平均で1リットル当たり3.11ドル強だった。年初来の傾向はさらに明確だ。1〜10月のアルゼンチンのワイン輸出額は5億4,037万6,000ドルで、2025年同期の5億5,484万5,000ドルから1,446万9,000ドル（2.6％）減少した。同じ期間の輸出量は1億6,916万4,700リットルとなり、前年同期の1億6,055万7,900リットルから860万6,800リットル（5.4％）増加した。

つまり、アルゼンチンは今年、海外でより多くのワインを販売した一方、その輸出収入は減少した。報道で引用された資料によると、1〜10月の1リットル当たり平均輸出額は前年同期の3.46ドルから3.19ドルへと下がり、7.6％減となった。

この変化には、輸出品目の構成の変化も影響しているとみられる。バルクワインの輸出量は30.6％増えた一方、1リットル当たりの平均価格は17.8％下落した。この組み合わせは、輸出全体に占める低価格商品の比率が高まったことを示唆する。こうした場合、総輸出量が増えても、ドル建ての輸出収入は同じ幅では伸びない。

この数値は11月11日（水）にInfobaeが報じ、一次資料であるINVの月次輸出報告書と照合された。INVのデータは11月2日までの申告に基づく。Infobaeの記事は、10月をそれ以前の低調さからの回復月と位置付けたが、累計データを見ると、輸出収入を2025年の水準に戻すには至っていない。

輸出額と輸出量の差が重要なのは、総額だけでは販売されるワインの種類の変化が見えにくいためだ。ある月のドル建て売上高が増えていても、輸出業者がバルクワインや低価格帯の商品をより多く出荷すれば、平均額は低下し得る。2026年の10月と最初の10カ月にアルゼンチンで起きたことの一因は、こうした構成変化にあるとみられる。

10月の数値は、生産者の収益性を直接示すものではなく、貿易統計として捉える必要もある。FOB価格は出荷時点での輸出価値を示し、仕向け先市場での最終小売価格ではない。また、1リットル当たりの平均額は品目構成を反映する指標だ。価格が同じワインで上昇または下落した場合だけでなく、品目、包装、仕向け先、契約条件の変化によっても動く。

INVのデータは暫定値であり、遅れて提出された申告や訂正が反映されると改定される可能性がある。それでも、公表済みの統計が示す大きな流れは明らかだ。10月は2025年の同月を上回ったものの、アルゼンチンのワイン産業は海外への出荷量を増やしながら、今年の輸出収入を減らしている。